

平成30年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

二兎を狙い（1年生）、二兎を追い（2年生）、二兎を獲る（3年生）大阪で一番元気のある学校～希望進路の実現100%と自主活動の取組み100%～

- 1 第一希望以上の進路を実現する確かな学力を養成する。
- 2 さまざまな自主活動の体験を通して、しっかりした人権意識とグローバルな視点をはぐくみ、高い志を抱いて社会に貢献する人材を育成する。
- 3 芸能文化の学びの中で新たな自分を発見し、大阪の文化の発展に寄与できる人材を育成する。

2 中期的目標

1 進路を実現する確かな学力の養成

(1) 生徒が生き生きと学ぶ授業づくり

- ア 生徒が生き生きと取り組む魅力ある授業づくりのために、研究授業、学校教育自己診断、授業アンケート等を効果的に活用する。
- イ ICTを活用した授業を全教科で行い、進路実現とこれからの時代に求められる、知識・技能とそれを基にした思考力・判断力・表現力、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を育成する。
- ウ 一人ひとりの生徒のニーズにできるだけ応えるため、習熟度別授業、選択科目の充実を図る。

(2) 一人ひとりの生徒の希望の進路を実現する。

- ア 大学関係者による講演や大学見学など、進路について考える機会を豊富に用意し、希望の進路を実現する強い意志を育む。
 - イ 学習習慣の確立のために、年間を通じた自習室運営、長期休業中の勉強合宿などに学校組織として取り組む。
 - ウ 外部機関を活用して効率的に情報収集、情報分析を行うとともに、志望校情報交換会などの取組みを行い、生徒支援のための情報共有を進める。
- * H28年度入試結果（国公立38名、関西難関私立大学250名：10クラス）を31年度入試で国公立大学40名以上、関西難関私立大学合格220名以上（9クラス）とする。

(3) 生徒の心身の健康を育み、学力向上の土台作りをする。

- ア 遅刻・欠席を少なくするなど学習の土台となる生活習慣の確立及び自律的で規律ある生活態度の確立に全教職員が連携して取り組む。
- イ 生徒が心身の健康を保ち安心して安全な学校生活を送れるよう、教育相談体制の確立と学校保健の取組みの充実を図る。
- ウ 生徒が自己や社会の在り方に関心を持ち、考え抜く力を養うための方法として読書に取り組めるよう、図書館の充実と読書啓発を進める。

2 自主活動の充実

(1) 生徒会活動をはじめとする自主活動の充実

- ア 体育祭を本校生徒会における最大の行事として位置づけ、本校独自の学年縦割り組織により「応援」「アトラクション」「マスコット」「スタンド」の活動を通してよき伝統を継承する。
 - イ 文化祭における3学年それぞれの取組みの充実を図る。
 - ウ 生徒が積極的にかつ安全に部活動に取り組めるよう、指導者の確保や施設設備の整備等の環境整備に努める。
- * 生徒向け学校教育自己診断における学校満足度を100%に近づける。

(2) 外部連携とボランティア活動の充実

- ア チャリティーマラソンの実施（国内被災地やネパールへの支援）をはじめボランティア活動を積極的に推進する。
- イ 芸能文化科による和 문화の普及継承に取り組む小高連携授業や、部活動・教科活動における異校種間の交流・連携、地域連携、クリーンアップキャンペーンなどを継続する。

3 人権教育、キャリア教育、国際理解教育の充実

(1) 自他を尊重することのできる幅広い人権教育に計画的に取り組む。

(2) 「総合的な学習の時間」とLHR等を活用して計画的にキャリア教育を推進する。

(3) 他者への思いやりと貢献意欲を強く持ち、行動に移すことのできる、国際社会で必要とされる人材を育成する。

- ア 海外への修学旅行や海外研修を経験することで、国際語である英語の習得意欲を喚起するとともに、国際社会に生きる人材として異文化体験を通じてグローバルな視点を養う。
 - イ 芸能文化科の生徒を中心に据えて、外国の生徒に日本の伝統的文化を体験してもらう機会を持つだけでなく、外国の教育関係者に日本（特に大阪）の伝統文化教育の意義と成果を積極的に発信する。
 - ウ 国際社会における意思疎通の手段の一つとして重要な位置を占める英語でのコミュニケーション能力を高めるため、授業・補習にとどまらず、朝のHRを利用した英単語テスト、英語学力調査、外国語指導者の効果的な活用など様々な取組み等を積極的に推進する。
- * 英語学力調査は平成29年度から1・2年生全員受験、平成30年度から4技能受験、平成31年度の4技能平均グレード3.2以上を目標とする。

4 芸能文化科の学びの推進

芸能文化科の取組を核として、国際社会において、日本の伝統や文化を積極的にかつ自信を持って発信し交流できる人材を育成する。

- ア 国内唯一の学科である芸能文化科の専門科目の一層の充実を図るために、特別非常勤講師や大阪芸術大学等との連携を強化する。
- イ 様々なメディアを通じて、芸能文化科の教育内容や外部連携の内容が伝わるよう情報発信を行う。
- ウ 芸能文化科が長年に亘って行ってきた社会貢献により構築したネットワークを活用して、応援団的ネットワーク作りを推進する。

5 チーム学校のさらなる資質向上と校務の効率化

- ア 経験年数の少ない教職員への計画的な校内研修を実施し、教育のプロ集団としての資質のさらなる向上をめざす。
- イ 教職員が心身の健康を保ち意欲を持って勤務に邁進できるよう、意識付けと校務の効率化を図り、時間外勤務時間を減らす。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成30年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>【学習指導】 生徒向けでは「授業を受けることで知識が増えたり技術が身についたりする」89%（H29は90%）とほぼ同じ割合であったが、「ICTを使った授業はわかりやすい」は82%（H29は78%）と増加、教員向けでも「ICTが設置されて授業を工夫するようになった」が92%（H29は88%）と増加しており、昨年度設置されたICT機器がさらに有効活用されていることが示された。</p> <p>【進路指導】 生徒向けで「将来の進路や生き方について学ぶ機会がある」89%、保護者向けも「進路について適切な指導を行っている」86%、教員も「一人ひとりにきめ細かい指導している」92%と全体に高評価であり、進路指導については継続した方向性での取組が求められている。</p> <p>【生徒指導】 生徒指導に関しては、教員の「家庭との緊密な連携ができています」が92%であったのに対し、保護者は「家庭連絡や意思疎通がきめ細やかで相談に応じてくれる」が76%（H29は75%）とやや差が開いている。さらに検証が必要と思われる。</p> <p>【学校運営】 教員の「思考力を重視した問題解決的な学習指導」の項目で肯定75%（H29は66%）と上昇し、「他の教員の授業を見学する機会がよくある」が81%（H29は69%）、校内研修は教育実践に役立つ内容も88%（H29は71%）と、授業改善の取組が着実に浸透しているうえに、「分掌・学年間の連携が円滑に機能している」が73%（H29は67%）と上昇しており、PTの取組が契機となり組織的なまとまりと活性化が見られる結果となった。H27年度教員の回答率が54.3%からH28年度は71.4%、今年度もH29年度に引き続き100%であった。また保護者の回答数も今年度は93%となり、ほぼ全体の意見が反映されるようになっている。学校としてPDCAサイクルを循環させ、より良い取組を進めていきたい。</p>	<p>第1回（7/21） 芸能文化科卒業発表会公開リハーサル見学後、平成29年度学校評価と平成30年度学校経営計画等について ・授業改善の取組みや、進路実績など素晴らしい。続けてほしい。 ・危機管理について、マニュアルの見直しを行い、不測の事態に備えてほしい。 ・働き方改革については質を落とさずに効率化と意識改革を。</p> <p>第2回（11/18） チャリティーマラソン及びICT整備教室見学後、進捗状況について ・共生推進教室設置に向けてソフト・ハード両面での準備を進めてもらいたい。 ・インクルーシブ教育の意義ある実現をめざしてほしい。</p> <p>第3回（1/30） H30学校評価案・H31年度経営計画案について ・肯定的な評価が全体に高く素晴らしい。学校運営協議会が要望したことも実現している。 ・PTの取組みも教員全体が関わっていてよいと思う。 ・働き方改革では、教職員の意欲を削がずに、具体的な対策を取っていただきたい。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 進路を実現する確かな学力の養成	(1) 魅力ある授業づくり (2) 進路実現のための取組 (3) 生徒の心身の健康の推進	① 次期指導要領を踏まえた授業力UPに向けての校内研修・研究授業を継続して行い、授業力向上をめざす。 ② 昨年度寄贈していただいたICT機器の有効活用を推進するために活用方法や管理方法などについて取組を継続する。 ③ 志望校情報交換会を前期・後期に開催して、生徒の志望校に関する情報を共有し、第一希望の進路実現を学校として支援する。 ④ 大学や企業と連携し進学講演会などの行事を実施する。 ⑤ 従来の進路指導の取組に加え、学校経営推進費による懇談・質問への対応強化を図る。 ⑥ 新大学入試に対応するためのPTを立ち上げる。〔「大学入試研究」「英語教育対策」〕 ⑦ 組織的な教育相談体制を機能させる。 ⑧ 基本的生活習慣を大切にす。	① ・校内PTを立ち上げ組織的な授業づくり研修・研究授業を実施する。 ・学校教育自己診断における「思考力を重視した問題解決的な学習指導を行っている」の項目の評価を70%以上(H29:66%) ② 「授業工夫」の項目の評価を80%以上(H29:78%) ③ ・国公立大学合格者数目標30/360名以上(H29:27/360名) ・難関私立大学合格者数180/360名以上(H29:176/360名) ④ 上記 ⑤ 上記 ⑥ ・「大学入試研究」チームによる情報共有 ・「英語教育対策」チームによる授業工夫とセンター入試結果でのリスニング得点を全国平均の90%以上にする。(H29:84%) ・英語学力調査の1・2年生平均スコアの4技能平均グレード3.2以上を目標とする。 ⑦ 生徒の相談体制を継続し、学校教育自己診断における教育相談の項目の肯定的回答を70%以上にする。(H29:69% H28:65%) ⑧ 遅刻数の1割減少(H29 遅刻4,133)	① ・学校教育自己診断における「思考力を重視した問題解決的な学習指導を行っている」の項目の教員回答75%で9%増(◎) ② ICT機器の活用推進のため職員研修(初級編・上級編)を実施。 自己診断での生徒による「ICT授業はわかりやすい」回答は82%(○)「ICTで授業工夫」は教員の回答92%(◎) ③④⑤国公立大学合格36名(現役21名)(△) 難関私立大学合格者数161名(現役122名)(△) ⑥ ・各教科において、昨年度のプレテスト分析、ほか情報共有や、外部講師による研修を実施 ・授業工夫の一環として「話す」「聞く」技能を高めるため1年生でレシテーションコンテストを実施。センターリスニング得点は学校平均が全国平均の93%(◎) ・英語学力調査は、1年は4技能平均グレード3.25(○)2年は4技能平均グレード3.75(◎) ⑦ 肯定的回答は69%で昨年と同様であるが、強い肯定的回答は昨年度の28%から31%に上昇(○) ⑧ ・遅刻数 本年度:3,186(◎) ・本年度は『予鈴時には教室に!』キャンペーンと予鈴後の駐輪指導を改革。加えて各学年の取組みの成果により23%減少(◎)
2 自主活動の充実	(1) 自主活動の充実 (2) 外部連携・ボランティア活動の充実	① 体育祭応援団の規律ある活動を継続し、生徒に集中と切替の意識を徹底させるとともに、生徒会執行部、団活動(応援、アトラクション、マスコット、スタンド)、体育祭実行委員会の活動を通じて、綿密な計画と準備過程の大切さを体感させる。 ② 芸能文化科生徒及び部活動所属生徒による異校種交流や地域連携、チャリティーマラソン、小中学生対象理科実験教室、クリーンアップキャンペーン等を継続して行う。	① 学校教育自己診断における体育祭・文化祭、学校行事の項目の肯定的回答(H29:94%)を維持する。 ② 学校教育自己診断におけるボランティアに関する項目の肯定的回答を90%にする。(H29:87%)	① ・自己診断での体育祭等行事に対する肯定的回答は91%(○) ② ・地域連携、異校種交流、理科実験教室(年6回)、クリーンアップキャンペーン等実施 ・自己診断でのボランティア活動に関する肯定的回答は88%。ただし異校種交流、地域交流においての活動への振り返りアンケート結果の肯定的回答は94.6%(○)
3 人権教育、キャリア教育、国際理解教育の充実	(1) 人権教育の取組 (2) キャリア教育の取組 (3) 国際理解教育の取組	① 本校の「人権教育マップ」「総合的な学習の時間」の計画に沿って、3年間通しての人権教育を実施するとともに人権講演会等の行事を定着させる。 ② 卒業後の進路を考えるためのキャリア教育の取組に加え、生徒の「書く力」「まとめる力」「発表する力」を伸ばす取組を実施する。 ③ 隔年実施している語学研修スタディーツアーを実施する。 ④ 海外修学旅行を継続し、連携校への訪問と来訪の受入れなど、双方向の国際交流を図る。 ⑤ 英語でのコミュニケーション能力を高めるため、総合的な学習の時間でも英語を活用しての取組に挑戦する。	① ・人権行事の実施 ・教職員対象の人権研修の実施 ・自己診断における人権教育に係る項目の生徒の肯定的回答を80%以上に(H29:79%)、教員の肯定的回答を70%以上に(H29:66%)する。 ② ・昨年度校内PTで策定した総合的な学習の時間3年間の実施計画を実行する。 ・自己診断での「将来の生き方や進路について学ぶ機会がある」89%の維持 ③ ニュージーランドスタディーツアー事後アンケートで満足度90%を目標とする。 ④ 自己診断アンケートで、国際交流の質問項目の肯定的回答85%を目標とする。(H29:83%) ⑤ 英語スピーチ作成に挑戦し、修学旅行等での国際交流に備える。	① ・人権講演会事後アンケートにおいて「講演を聞いて良かった」と回答した生徒は99%(◎) ・「人権について学ぶ機会がある」生徒の肯定的回答は85%(◎)、「命の大切さや社会のルールについて学ぶ」教員の肯定的回答は75%(◎) ② 自己診断での「将来の生き方や進路について学ぶ機会がある」89%(○) ③ ・スタディーツアー参加生徒事後アンケートの肯定的回答は100%(◎) ④ 自己診断アンケートにおける国際交流肯定的回答は83%(○) ⑤ 2年生で修学旅行前スピーチ発表を初めて実施(○)
5 資質向上と校務の効率化	(1) 教職員研修の充実 (2) 教職員の心身の健康増進	① 経験年数の多い教職員から少ない教職員向けに教員力アップにつながる職員研修を計画的に実施する。 ② 校務効率化と心身の健康への意識付けを図り、時間外勤務時間の削減をめざす。	① 経験年数の多い教職員を講師に、年間計画を立てて研修を実施する。 ② 時間外勤務時間の1割以上減少をめざす。(H29:教員年間総時間約36,041時間)	① 再任用教諭による職員研修を実施中(○) ② 毎月時間外勤務時間の個票配付及び半期における前年度との比較データを配付し、注意喚起した。4月～2月までの時間外勤務時間総計は、0.57割減(△) H30:33,990時間